

(当テキストは決算説明会における説明を元に投資家の皆様の利便性を考慮して、要約としてまとめたものです。当日の説明を一言一句書きとめたものではありません。ご了承ください。)

P2「2012年3月期 第3四半期累計決算 <概略>」

- ・ 2012年3月期第3四半期累計の営業利益は、残念ながら366億円の赤字となりました。構造改革費用、東日本大震災の影響、タイ洪水の影響、のれん及び長期性資産の減損処理費用の計上の影響しており、これらの特殊要因を除くと、385億円の黒字となります。
- ・ 第3四半期は、円高の進行、タイ洪水の影響、欧州問題等による購買意欲への影響により、主要商品に影響が出始めております。
- ・ 新興国市場での事業拡大に向けた新製品投入や、MDS(マネージド・ドキュメント・サービス)、ITサービス等のソリューションビジネスの拡大、構造改革などの中計施策は予定通り進んでおります。
- ・ しかしながら、この第3四半期の状況を踏まえ、通期見通しを下方修正させていただいております。減損処理、繰延税金資産の減少等の影響もあり、大変遺憾ながら、通期の営業利益、当期純利益とも赤字の予想といたしました。
- ・ 中計施策は予定通り進んでおり、来期以降、収益は必ず回復すると考えております。このため、最終赤字の見通しではありますが、期末配当金は無配ではなく減額とし、年間配当は33円から25円とさせていただきたいと考えております。

P3「【補足】今回の決算における特殊要因について」

<新規連結の影響>

- ・ 2011年10月にペンタックスリコーイメージングを設立いたしました。本格的な事業のスタートとはこれからになります。

<タイ洪水の影響>

- ・ タイにあるリコーグループの生産拠点自体は被害を受けませんでした。部品を供給いただいている協力工場に多大な影響が出ました。一部部品の供給不足により製品生産に影響を受け、第3四半期後半から、受注残が発生しております。第3四半期では、売上高53億円、営業利益19億円のマイナス影響が出ております。

<構造改革費用>

- ・ 第3四半期では、費用57億円、効果54億円、ネットで3億円の営業利益減要因となっております。9ヶ月累計では、費用296億円から効果54億円を引いた242億円がネットの費用となります。
- ・ 通期では、費用310億円、効果110億円、ネットの費用として200億円を今回の見通しに含めております。
- ・ 国内希望退職募集の結果に関しては、応募人員が公表時の約1,600名に対し2,340名となりました。費用は公表時の約230億円に対し、247億円となりました。

＜長期性資産減損費用の計上＞

・長期性資産の減損費用の計上を12月に行ないました。米国会計基準に則り社内で減損テストを実施致しました結果、プロダクションプリンティング事業に関連するのれん及び長期性資産の減損の可能性が高いことが判明し、今回、その減損額369億円を計上いたしました。のれん分は274億円、長期性資産分95億円となります。減損額は、第3四半期に販管費として計上し、営業利益の減益要因となりました。最終的には第三者による減損テストの結果をふまえて、通期決算にて確定する予定でございます。なお、会計上の処理でございますので、キャッシュフローには、全く影響ございません。

＜有価証券評価損の計上＞

・株価下落により、保有している投資投資有価証券に評価損が発生いたしました。50億円を営業外損に計上しております。

＜繰延税金資産の減少＞

・法人税率の変更に伴い、繰延税金資産が72億円減少いたします。法人税の増加として第3四半期に計上いたしました。

P4 「2012年3月期 第3四半期累計 業績」

・営業利益ではマイナス366億円となりましたが、構造改革費用ネット、震災・タイ洪水影響、長期性資産減損費を除きますと、プラス385億円に相当いたします。

P5 「【参考】 2012年3月期 第3四半期累計 分野別売上高」

・画像ソリューションは、為替を除いても前年比マイナス0.1%となりましたが、ネットワークシステムソリューションは順調に伸びております。

P6 「【参考】 2012年3月期業績 補足： 四半期推移」

＜分野別＞

・画像ソリューションでは、第3四半期ではタイ洪水の影響により受注残が残っております。第4四半期にはかなり解消する見通しです。これが無ければ、第3四半期は、第2四半期並みの増収率だったと考えております。事業環境は、極端に悪くなってる訳ではありませんが、やや今後に関してはやや不透明感を感じています。

・産業分野は、景気減速の影響を受けております。

＜地域別＞

・日本は、タイ洪水による受注残発生などにより、伸び率はフラットでした。第4四半期に取り返したいと考えております。

- ・米州は、震災のバックオーダーがやっと解消されところで、タイ洪水によるバックオーダーが生じ、マイナス3.4%と苦戦しております。
- ・欧州は、景気影響を受け始めておりますが、状況は国ごとにばらつきがあります。また、タイ洪水によるバックオーダーの問題もありますが、それを含めても5.2%の成長をしております。
- ・その他地域についても、バックオーダーを抱えながらも16.9%の成長を達成しております。

P7 「【参考】17次中計主要戦略の進捗状況」

- ・中計の進捗状況と、新製品の投入状況になります。
- ・今年の夏前にご説明いたしました、グローバルベースでの1万人規模の人員合理化は、計画通り進捗しております。

P8 「2012年3月期 第3四半期累計 営業利益:前年同期比増減分析」

昨年度の9ヶ月累計の営業利益539億円から、今回マイナス366億円と、905億円の減益となった要因分析になります。

＜販売増＞

カラーMFP、プロダクションプリンティング、MDS、ITサービス、ノンハード比率の増加により71億円の粗利増。

＜製品原価低減＞

継続的なコスト削減により27億円の粗利増。

＜研究開発費＞

ほぼ予定通り新製品開発を進め、79億円の費用増。

＜その他の経費＞

新規連結などによる増加がありましたが、経費コントロールにより66億円の経費増とどめた。

＜為替影響＞

円高の進行により、107億円の減益要因。(283億円の粗利減と177億円の経費減)

＜構造改革費用＞

費用296億円と効果54億円のネットで242億円の減益要因。

＜震災・タイ洪水影響＞

上期計上の震災影響112億円と、第3四半期における震災影響、タイ洪水による影響28億円の合計で140億円の減益要因。

＜減損費用＞

369億円の減益要因。

P9 「【参考】2012年3月期業績 補足：四半期推移」

- ・特殊要因を除く、第3四半期の営業利益が第2四半期よりも低下しております。一括商談の獲得などの一時的要因、円高進行などによります。
- ・販管費率が大きく上昇しておりますが、特殊要因を除くと横這いとなります。研究開発費が増えておりますが、ここも聖域とはせず構造改革による合理化進めた上で費用が増えております。

P10 「2012年3月期 第3四半期累計 連結セグメント情報：事業別(1)：画像&ソリューション分野」

- ・画像&ソリューション分野全体では、マイナス3.1%の減収でしたが、為替を除きますと0.5%の増収でした。
- ・MFP、プリンターのハードは、経済環境の不透明感に伴い、需要の抑制が生じ始めております。ノンハードはプラス1%成長と、前期に増加したハードの影響が現れてきております。
- ・ネットワークシステムソリューションは、前年比5.9%増収となりました。特に国内のITサービスの売上成長がけん引しております。

P11 「【参考】画像&ソリューション分野 補足：四半期推移」

- ・今年度、ハードが若干前年割れをしておりますが、これは主に震災、タイ洪水が影響しております。新製品投入、バックオーダーを取り戻すことにより、第4四半期以降、プラスに転じるものと期待しております。

P12 「2012年3月期 第3四半期累計 連結セグメント情報：事業別(2)：産業分野」

- ・営業利益は、残念ながらマイナス26億円となりました。ここには構造改革費用と震災影響の売上減などが含まれます。下期の営業利益はブレイクイーブンにしたいと考えておりますが、更に抜本的な手を打とうと考えております。

P13 「2012年3月期 第3四半期累計 連結セグメント情報：事業別(3)：その他分野」

- ・営業利益では、マイナス35億円となりました。ここには新規事業の先行費用15億円が入っております。四半期ベースでは、構造改革などの効果で、前年比で若干改善しておりますが、さらに改善の手を打ってまいります。

P14「2012年3月期 第3四半期累計 連結セグメント情報:所在地別(1)日本、米州」

＜日本＞

営業利益で303億円の赤字となりましたが、ここには構造改革費用247億円、減損処理費用151億円が含まれています。第4四半期は、バックオーダーの解消、期末に向けた新製品の拡販、構造改革の効果などによる利益増を見込んでおります。

＜米州＞

営業利益で269億円の赤字となっております。この中には、減損処理費用181億円などが入っておりますが、この181億円除いても88億円の赤字となります。理由としては、景気影響で需要の抑制が見られ売上が伸び悩んだこと、タイ洪水によるバックオーダーの発生、円高進行による影響があります。また、通常経費においても、構造改革を進めております。第4四半期では、新製品拡販、バックオーダーの解消などにより黒字化を見込んでおります。

P15「2012年3月期 第3四半期累計 連結セグメント情報:所在地別(2)欧州、その他」

＜欧州＞

欧州においても、営業利益は131億円と減益ですが、ここには減損処理費用19億円も含まれ、また円高、バックオーダーの影響も受けております。新製品拡販、バックオーダー解消などにより、第4四半期は利益の積み増しができると期待しております。

＜その他地域＞

営業利益は52億円、また減損処理費用を除いても69億円と減益となっております。ここも、円高、バックオーダーの影響を受けています。ただし、順調に成長を続けており、新製品のA4MFPとA4LPの影響が一番ポジティブに効いてきますので、第4四半期は期待を持っております。

P16「連結貸借対照表 < 2011年12月末 >」

- ・総資産は691億円の圧縮となりました。
- ・バックオーダー解消、新製品の作りだめなどにより、棚卸資産が増加しております。3月末に向けて、削減する予定です。
- ・固定資産のその他の投資は減損処理で減少しております。

P17「【参考】連結貸借対照表: 主要指標推移」

- ・株主資本比率が、減損処理、為替換算などの影響で36.7%に低下しております。
- ・D/Eレシオも、株主資本の減少と有利子負債の増加により0.93と悪化しております。
- ・棚卸資産回転期間が延びており、短縮してまいります。

P18「連結キャッシュフロー計算書 < 9ヶ月分 >」

- ・利益減、在庫増加、あとそれから事業の買収などにより、フリーキャッシュフローは残念ながら1151億円のマイナスとなっております。
- ・第4四半期に利益増加、在庫削減などにより改善してまいります。

P20「2012年3月期 通期 業績見通し < 修正 >」

- ・残念ながら、営業利益ではマイナス180億円、当期純利益でマイナス460億円という赤字の見通しとなっております。足元の世界経済の不透明感、タイの洪水影響等、またこの12月の減損処理等含め、通期見通しを下方修正いたしました。
- ・税前利益では有価証券評価損の計上などもあり、330億円の赤字の見込みといたしました。
- ・当期純利益は繰延税金資産の減少分72億円も含め、460億円の最終赤字となる見込みです。
- ・構造改革費用、研究開発費用の見通しは前回から変更ありません。
- ・設備投資は、前回見通しから50億円引き上げて700億円といたしました。

P21「2012年3月期 通期 営業利益見通し：前年度比増減分析」

前回見通しから営業利益を550億円引き下げております。

- ・販売増は、先回320億円を158億円に引き下げました。
- ・その他の経費は、80億円から68億円に若干改善しております。
- ・為替影響は、マイナス140億円がマイナス135億円と5億円改善しております。
- ・震災・洪水影響として、マイナス140億円がマイナス175億円へと増加しました。
- ・減損費用として369億円を計上いたしました。

P23「連結財務指標推移（年度別）」

- ・今期最終赤字の見通しとなり、株主様、投資家の皆様にご心配をおかけすることとなり、大変申し訳なく思っております。なお、今回の修正の最大の要因は減損処理費用の計上によるものであり、構造改革など様々な施策は順調に進んでおります。
- ・来期は収益の改善を見込んでおりますので、今回は最終赤字の見通しではございますが、期末配当金は、無配ではなく減額にとどめ、16円50銭の予定を8円50銭の減配とさせていただきたいと考えております。中間の16円50と合わせ25円。年間の33円から25円ということで、若干の減配にさせていただきたいというに思っております。
- ・経営陣としてまさに責任を感じ、業績回復に向け努力してる最中でございますので、ご理解の程お願いできればと思います。